

暮らしと命を托せるか

今回の飛翔体の発射、二度に渡る発射誤報、迎撃シテムの総額に、国民の税金はいったいどれほど使われているのでしょうか。

もしこれが作為の情報であった場合を、私たちは常に想定すべきでは？個人が検証する術を持ち合わせていません。すでにマスコミの情報操作は実際に権力者が使う常套手段であることが検証されています。

平和ボケで危機意識の欠如した「赤字国家」そのもの、私たちの想像力が試されます。政府が配分する「税金」は他人の金なんです。

調査し徴収する（税務署）側も配分する側も他人の金です。「心」は皆無と言ってよいでしょう。

担当者は検証する意志も能力もすでに失われ、現場を深く支配しているのはノルマと上意下達です。当然心ある職員は確実に精神を病むのです。実際（税務署で）、病人が増えています。「便り・NO32号ぶれない」にも書いた劣化現象が日常化しています。職員は他人の痛みなどかまっていられない状況に追い込まれ、この責任は当然に職員にあるのです。

それぞれ自分達民意の低下、国家の衰退を意味しています。「平凡な、当たり前の発想」が失われた時の諸症状なのです。

歴史の必然として、民意を反映しない、既得権益勢力の自公政権は確実に消滅（壊滅）することでしょう。

キミの情熱を

気概喪失の意気地無し、行動しない草食男子・肉食女子の時代の模様。

約半数を占める女性は、ひじょうにちがったところのある生物です。そもそも男性は知らず情へ動く。ところが、女性は情から知へ動くのです。人の中心は「情」であって、情の根底は「人の心の悲しみ」を自分のからだのいたみのご

とく感じる心」なのです。

人と動物とのいちばん大きなちがいは、人はひとの感情がわかるが、動物にはわからないということが現在の定説ですが、近頃、どうも余裕の心を失いつつあるのでしょうか。目標があまり遠くても情熱はわかない。目標が正しくなくても情熱はわかない。また、全然責任を感じないときにも情熱はわかない。また、やさし過ぎて情熱はわかないものです。

お詫びと訂正

前号のコラムの見出しに誤りが有りました。

プリシンプルは誤りです。プリシンプルが正しい。

誤読は、本人が単語の意味を正確に理解していない

と前に書きましたが「証明」であります。お詫びして訂正致します。

白州次郎の自署「プリシンプルな日本」を購入、読んでいる所ですが、大変に失礼致しました。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2009年4月6日（月）NO37

地域から明るい未来を作ろう

降りそそぐ満天の星明かりに見せられて寒さの中、星を見上げていました。私が好きな星雲はオリオン座の近くにあります。

M45星

雲、「昴」です。肉眼では少し霞んで見えますが、10倍

星を仰ぎ思ひだす

余りの望遠鏡で観ても十分に衝撃を受けます。（私のは登山常備の双眼鏡です）

も充分に貧乏ですが、懐かしい思い出です。引き締まる静寂と寒さの中で観た「昴」カタツムリ



ニー・イエローダイヤモンドの輝きを超えていたのです。

上に6個（確認）の青白く輝き渦巻く星の衝撃、ショウウィンドーの宝石を遙かに超えていました。一昨年観た128カラットのティファ